

上京

史蹟と文化



美を語る

鉄齋と交友——虎屋

京都御苑の周辺を歩くと、江戸時代以来長く続いてきた商店をいくつも見つけることができます。かつて御所に御用を勤めていた商店が多く、今も変わらず由緒ある商いを続けておられる。変転極まりない市の中心部の商業地域から見ると、まるで別天地の、格式高く、静かな商いですが、かつての御苑の住人が東京へ遷られて、その大きな空白を護っているような、健気とも見えるただすまいを感じないわけではありません。

虎屋もそうした商店の一つ。けれど当時の虎屋は、明治天皇が明治二年（一八六九）に東上された折、共に東上して、東京で新しい店を開きました。天皇にどれ程の人数の人々が供奉して東上したかは判然としませんが、後に京都の虎屋の主人と親交を結ぶことになる富岡鉄齋も、その随行の中に居たのです。鉄齋の東京滞在は、妻たつの急死の知らせによって早々と打ち切られてしまいました。が、虎屋の東京店はその後、順調に発展し、東京を代表する菓子舗の一つとして今日に到っています。東京からやって来る人の中には、虎屋の羊羹ようかんを持参する人が折々あります。その折、多少の違和感とともに、「この方は京都が元祖とご存知なのだろうか。」と、意地の悪い態度もしてみるのは、いつまでも、こちらが上と思いたい京都人の悪い癖なのかも知れません。

さて、富岡鉄齋が虎屋の京都の店の近く近くに転居してきたのは、明治十四年（一八八二）十二月のことでした。一条通室町下ル薬屋町。そして九十歳を目前に、大正十三年（一九二四）十二月三十一日に他界するまで、四十二年間にわたって、この地を棲み処としました。本誌『上京—史蹟と文化』の二〇〇六年第三十号に、鉄齋旧邸のことが詳しく紹介され、石碑のグラフィアも掲載されていますので、こ



美術家

加藤 類子

記憶の方もおられるでしょう。鉄齋が終の棲み家を定めたのは、四十六歳の時。当時としては長寿の、鉄齋の生涯のほぼ半ばを過ぎた頃ですが、それまでの鉄齋の前半生を少し辿ってみましょう。

富岡鉄齋が生まれたのは天保七年（一八三六）、京都三条通衣棚、法衣商十一屋伝兵衛・富岡維叙の次男としてでした。この頃、二百年余続いた徳川幕府の支配にも次第に綻びが見えはじめ、近海の波も高くなり始めていました。鉄齋は幼少時に病んだ胎毒がもとで耳が遠く、また学問を好んだので、商人の道を進まず、早くから学問の道を志しました。当時の子弟教育のお決まりの漢学の外にも、国学、陽明学、天台仏教、詩文など、貪欲に幅広く学び、二十歳頃には学問で身を立てる程になっていました。一方鉄齋は、父の紹介で有名な歌人大田垣蓮月の書生となり、彼女の陶器作りや運搬を手伝いながら、その余暇に読書や書画の修得にはげみました。大田垣蓮月が京都での倒幕運動に加担していたとする言い伝えが多く残されていますが、事実と正しい得るものは、ほとんどありません。しかし、このような噂が絶えなかったことから、蓮月の下に入りした当時の若い人々の中に、後に幕吏の追跡を受けたり、嫌疑をかけられたりした人々が居たことは、想像されます。鉄齋その人も、国学に傾倒し、神ながらの道を指導原理とする新しい時代を待望していたに相違ありません。二十五歳の文久元年頃に長崎へ遊学、同地で絵

●表紙の題字 吉川蕉仙先生

上京区130周年を記念して、題字を上京区在住の書家吉川蕉仙先生に、揮毫していただきました。先生は京都学芸大学（現京都教育大）卒、学生時代より日展に入選入賞を重ねられ、平成19年には内閣総理大臣賞を受賞されました。現在は京都橘大学名誉教授、日展評議員、京都書作家協会顧問等を務められ、活躍されています。



消えた 榎木町通

宝永五年（一七〇八）三月八日の正午頃、油小路姉小路下る西側二軒目の両替商伊勢屋市兵衛方から出た火は、折からの強風に煽られて東北と東南の方向へ燃え広がり、翌九日の午後二時頃になって鎮火しました。これが宝永の大火なのです。東は鴨川、西は油小路、南は四条、北は寺町頭の範囲に及び、皇居をはじめ公家・武家の邸宅・神社仏寺を焼き、その町数三百六十四町、町

家は一万三千五百十一戸が類焼したと記録されています。さらに下鴨村にも飛火し、河合社や農家八十七戸を焼いています。相国寺と周辺の公家屋敷は類焼を免れましたが、

その焼失の範囲は現在の東京区と中京区の東半分に当たります。この大火後、焼失した公家町を整備するために大がかりな市街地の改造が行われました。現在の京都御苑は南北一三〇〇メートル、東西七〇〇メートル、外側一周四キロ（一里）という石垣に囲まれた一廓となっていますが、これは明治の十年代に公家町の廃屋を撤去して公園化された結果なのです。大火以前は、その南一丁分と西南部が民地でした。当時の榎木町通は烏丸通から東へ寺町通まで存在し

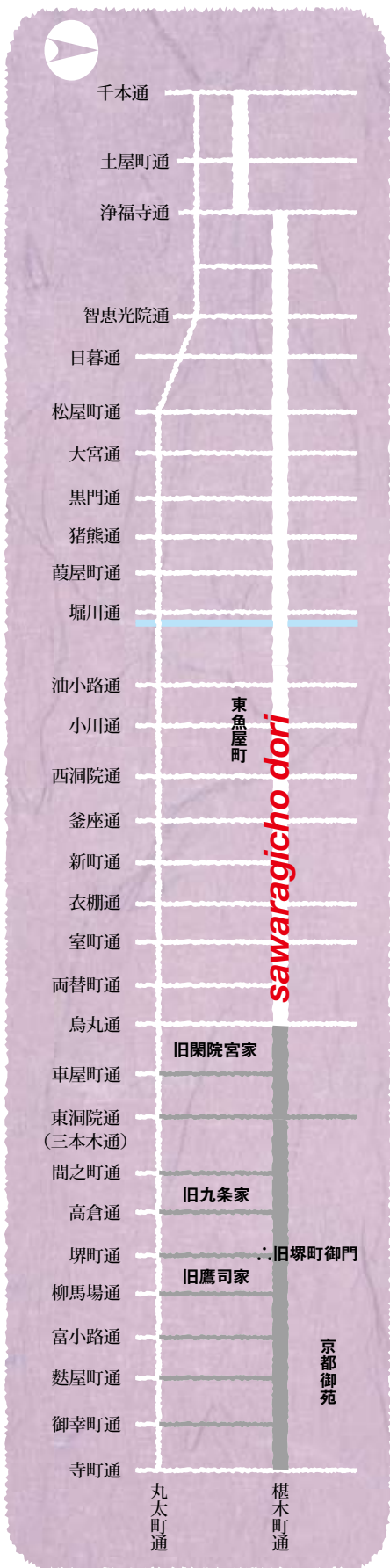
ていたのでした。また、三本木通といわれていた東洞院通も、丸太町通から北へ出水通まで三丁分が民地でした。現在、東洞院通の竹屋町を下がった所にある町を三本木五丁目というのは、出水通から一丁目が始まっていたためです。したがって榎木町通と丸太町通の間には、御幸町通に始まる縦通りがそれぞれ南からのびてきていたのです。大火後、公家町を拡張するため

に、この部分の民地を鴨川の東にあった岡崎村の農地に強制移転させたのでした。そこは現在の左京区の新洞学区であり、「新」のつく通り名や町名が多く残っています。新丸太町・新麩屋町・新富小路・新柳馬場・新堺町・新高倉・新間之町・新東洞院 新車屋町がそれに当たり、寺町と鴨川の間に新烏丸・新榎木町、さらに三本木が残っていますが、新御幸町だけは下長者町通浄福寺西入に町名を伝えています。この時、寺町と鴨川の間にあつた多くの寺も川東へ移転します。

移ってきた 公家町

公家町の復興が進むとともに、この一帯に新しい公家屋敷が建設されました。現在は丸太町通に面している堺町御門も、幕末までは今より一丁北にあり、蛤御門や下立売御門も一丁東付近でした。これは宝永大火以前の公家町と民地の境になる地点にあたります。これらの門が明治の公園化に際して新しく築かれた石垣の間に移されました。

大火後の新しい公家町は、東南隅に下級公家の屋敷が軒を連ねていました。当時の京都の人は「長風や芝園池に梅桜、池尻交野、妙法林丘」と口ずさんで、今の堺町御門の東側にあつた長谷・風早・芝山・園池・梅小路・桜井・池尻・交野の諸家と妙法院と林丘寺の里坊の順序を覚えたのです。これは他にも公家町の覚え歌として伝えられています。



九条池・拾翠亭

今の堺町御門の両側には五撰家の大邸宅が構えられます。東側に千五百石の鷹司家、西側の九条家は二千石の家禄にふさわしい屋敷を与えられたのです。九条家の邸跡は九条池を中心にしてその面影を残しており、一万余坪の敷地に三千八百坪の建物がありました。今も残る池はその形から勾玉池の名があり、廻遊式の庭園は公家の好みによるもので、京都御苑の北西部にある近衛池とともに江戸期を代表する公家の私邸の庭として貴重な遺産といえましょう。

明治初年の絵図には九条家の建

物を活用した料理屋の存在が知られます。池の中央にある橋はおそらくその頃に架けられたのです。池の西側には拾翠亭という二階建の瀟洒な建物が残されています。九条家の本邸がどのような建物であったかは定かではありませんが、少なくともこの小亭は池を挟んだ離れであったと思われ、数寄屋造の営みは勾玉池を前に私的な客を遇する恰好の場所であったのでしよう。天明八年（一七八八）の大火後に建てられたと推定され、京都御所や京都御苑に残る最古の建造物の一つかもしれません。

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677

この池の中央に突き出した岬には、京都三珍鳥居の一つといわれる厳島神社の石鳥居があり、重要な美術品に認定されています。この神社には平清盛にまつわる由緒もあるようですが、少なくとも宝永の大火以後に現在地へ移されたと思われ、この鳥居も最近の研究では室町時代の作と推定されています。珍鳥居の由来は鳥居上部の笠木と島木が唐破風形に反り返っており、類例のない鳥居として知られてきました。

東京奠都後の 公家町

明治になって東京へ転動した公家の邸宅は空家となり荒れ果ててしまします。明治六年からは仙洞御所や大宮御所で博覧会が開かれ、明治十三年には東南隅の跡地で京都府画学校が開設され、田能村直入が摂理(校長)となって、東宗・西宗・南宗・北宗の四つの学科を置き、当時の京都の名立たる画家

が教授として指導しました。今の京都市立芸術大学の始まりです。翌十四年にはドイツ人ワグネルの設計で博覧会場が建てられます。

京都の衰退を最も憂いた岩倉俱視の一言で、廃墟と化した公家町の公園化が進められます。京都御所で執り行われた大正・昭和度の大札(即位礼・大嘗祭・饗宴)では、東南隅に車馬を駐める施設が設けられ、戦後は諸島にもなりましたが、その後、富小路広場としてテニ



旧 閑 院 宮 邸

スコートやゲートボール場などの運動施設として活用されています。

御苑の西南隅、一丁四方が築地塀に囲まれています。その北側が旧榎木町通です。この一廓は、かつて閑院宮家があったところで、明治以降、宮内省内匠寮出張所として京都御所を管理する役所が置かれていました。この屋敷地は、烏丸・榎木町・東洞院・丸太町に囲まれた一等地です。ここに閑院宮家の邸宅が置かれました。閑院宮家は伏見宮家・有栖川宮家・桂宮家とともに皇位継承権を有する四親王家で、光格天皇は閑院宮家の出自なのです。その壮麗な邸宅は解体され、その古材をもって宮内省の庁舎が建造されました。そのため玄関などは往時の遺構をとどめています。今残る建物は事務所に改造されたもので、往時の宮邸そのままとはいえません。

ただ近年になって環境省の京都御苑管理事務所となり、保存のための解体修理がなされ、京都市埋

蔵文化財研究所の発掘調査によって、南側にあった往時の池庭が復元されています。

上之店

京都御苑を西へ出ると烏丸通から千本通まで一・五キロ程の家並が続きます。府庁前の広い釜座通を越えると、ところどころに商店が見られます。西洞院通から小川通を経て、油小路通に至る一丁を



東 魚 屋 町



上之店奉納の石灯籠

東魚屋町ひがしあやまろといい、上之店かみのたなと呼ばれた魚問屋のあったところでした。江戸時代の京都には榎木町の上之店、錦小路の錦棚、六条の魚棚うおたなといった三ヶ所の魚問屋がありました。店・棚は商品を置く棚がある固定した店舗の意味です。そのため榎木町通は上魚棚通とも呼ばれました。古くは聚楽第の周辺に集まってきた魚鳥・蔬菜そぼ・果物等の市場であり、宝永の大火後に榎木町通へ移ったと伝えられています。昭和二年に京都市中央卸売市場が開かれたことにより、問屋としての役目を終え少数の鮮魚店を

残すのみとなっていましたが、現在では仕出し料理店のほかには昔ながらの製造を続ける麩と豆腐店が見られるだけになりました。この町の氏神である下御霊神社（寺町通丸太町下る）には台石に「上之店魚問屋」と刻まれた大きな石灯籠が天保十五年（一八四四）に奉納されています。竿石には「福神講」とあり、おそらく上之店の講中であつたと思われます。享保年間（一七一六〜三六）、上之店には十二軒の魚問屋があつたとさられていますので、ずいぶん繁盛していたのでしょうか。

榎木町通周辺は良質で豊富な地下水に恵まれており、染工場や蒸工場をはじめ地下水を必要とする食品加工業も多くあつたのです。堀川を越えた大宮通からは平安京の大内裏



昔ながらの酒蔵

にあたります。この地点は待賢門のあつたところで、陽明門やうめいと郁芳門いくほうの間に挟まった門であるところから中御門大路なかつみかどといわれました。日暮通あたりに一軒の造り酒屋があります。今では京都市の中心部で醸造をしている唯一の酒蔵となっており、銘柄にも縁りある土地の名が用いられ、往時の榎木町通をしのぶ役割を果たしているのではないのでしょうか。

（出雲路敬直）

柔道圓心道場
〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上/下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院
〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上/相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御堂前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

上京の埋蔵文化財

―上京遺跡の発掘調査―

「上京遺跡」とは

上京遺跡とは、平安京の北東側に接する中世の都市遺跡です。その範囲は、北は上御霊前通、西は智慧光院通、東はほぼ烏丸通、南は一条通に囲まれた約一キロメートル四方におよぶ広い遺跡です。また、この遺跡と深い関連があり、その東側に隣接、或いは重複する遺跡として、室町幕府三代將軍足利義満によって建立された相国寺旧境内、永徳元年（一三八一）足利義満による造営の室町幕府御所・室町殿跡（花の御所）、貴族の邸宅である五撰関家近衛家の屋敷（桜御所）跡を中心とする新町校地遺跡と寛元三年（一二四五）に造営された九条実経の邸宅跡の

一条室町殿跡、本満寺の構え跡などがあります。

いままで実施された発掘調査

上京遺跡の発掘調査は、すでに二度実施されています。一度目は、二〇〇四年に上京遺跡の中央部北寄りに位置する表千家不審菴敷地内で行われ、平安時代の溝、室町時代の柵列・堀・井戸・土坑（ゴミなどを捨てた穴）、江戸時代の土坑などが見つかりました。

二度目は二〇〇五年、前回の調査地から約八十メートル北西に位置する裏千家今日庵敷地内で調査が行われました。室町時代後期の溝、井戸、土坑、江戸時代の石室、井戸、土坑、埋納遺構などが見つかりました。

今回、三度目の調査を二〇一〇年四月十九日から五月十四日まで行いました。いずれの調査も（財）京都市埋蔵文化財研究所が担当しました。

今回の調査地の歴史

今回調査した場所は、上京遺跡の中央部西寄りに位置します。現在の住所は、京都市上京区堀川通上立売下る北舟橋町です。通りでは、南を今出川通、西を猪熊通、東を堀川通、北は山名町を貫く東西通に囲まれた範囲のほぼ中央に位置します（図一）。このあたり一帯の自然地形は、もと

された時、この丘陵の南側に平安宮がおかれ、その北側は平安京外になりました。

京外は当初、計画的な開発はなされませんでした。平安時代後期あたりから、京域を越え、左京に人家が集りはじめ、その京外の北にも開発が及ぶようになり、中世に入ると、さらに開発が進み、市街地化していきます。それとともに平安京左京の南北通が北へ延長され、新たに「辻子（ずし）」といわれる東西通も作られ始めます。

もと船岡山から続く丘陵地帯であり、その広がり、北が船岡山、西は天神川、東は堀川、南は二条通をほぼ境とする範囲です。調査地はその北東端部に位置します。平安京が造営



図1 調査地の周辺概略図

調査地周辺の南北通りである猪熊通や堀川通、東西通である山名辻も同様に作られました。そして、室町時代後期には、室町小路を中心に「上京」「下京」といわれる町ができてきたとされています。またこのあたり一帯を西陣といいますが、これは応仁・文明の乱で山名宗全らの西軍がこのあたりに



図1-1



図1-2

陣を置いたことが由来です。西陣は近世になると、大宮通を中心に絹織物の一大生産地となります。調査地周辺の歴史的な石碑など

調査地の周辺には歴史的な説明板や碑があります。山名町にある「図一の二」は、山名宗全邸跡の石碑です。山名宗全は室町時代に



図1-3



図1-4

尊氏の執事、高師直の邸があり、泉殿の下に舟橋を浮かべて遊興したことから起こったとも言われています。この「北舟橋」が上杉本洛中洛外図屏風には描かれています。「図一の三」は、西陣の地名の由来が書かれた石碑です。前述した山名宗全が細川勝元と対峙し、西側の山名邸で陣を構えたこ

数カ国を領した有力な守護代大名でした。応仁元年（一四六七）、八代將軍足利義政の跡継をめぐる争いから、応仁・文明の乱が起こり、山名宗全は細川勝元と争い、戦乱は全国に広がり十一年間続きました。これが戦国時代のはじまりです。「図一の二」は舟橋の石碑です。「舟橋」の地名の由来は、堀川が氾濫したとき、舟を繋いで橋としたことから起こったと言われています。また、足利

とからその地名が起こりました。なお、この石碑がある京都市考古資料館には、発掘調査成果の展示や資料が集められています。ぜひご来館ください（入場無料）。「図一の四」は、江戸時代の西陣が絹織物の一大生産地となり、大宮今出川あたりが栄えた由来の説明板です。大宮通には糸間屋が軒を連ね、日々千貫千両に値する品物が往来したことから「千両ヶ辻」とよばれるようになりました。

耳鼻咽喉科

鈴木医院

京都市上京区中立売通堀川西入

441-0675

診察時間 午前9時～12時
午後4時半～7時半

	月	火	水	木	金	土	日
午前	○	○	○	×	○	○	×
午後	○	○	○	×	○	×	×

祝休診

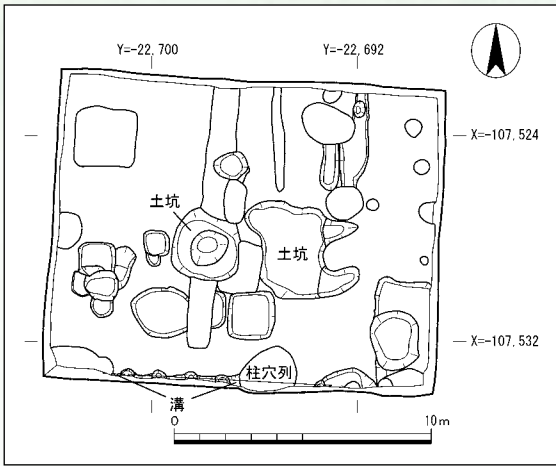


図2 室町時代後期（16世紀中葉）～江戸時代初期（17世紀初頭）の遺構



図3 全景写真



図4 柱穴と溝写真

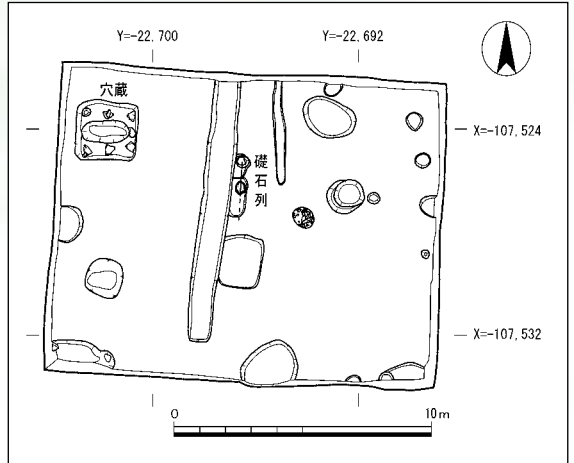


図5 江戸時代の遺構

調査で見つかったもの

発掘調査では新旧に時期が分けられる遺構が見つかりました。

古い時期のものは、室町時代後期（十六世紀中葉）から江戸時代初期（十七世紀初頭）の土坑や溝、柱穴列などが見つかりました。主なものをあげていきます（図二・三）。

調査区の中央部東側で見つけた土坑があります。その規模は東西約四・五メートル、南北約三・八メートル、深さ約〇・二メートルありました。そこからは十六世紀中葉の土師器皿（素焼きの土器・かわらけ）が多く出土しました。また調査区中央部西側で見つかった土坑は、その規模が直径二・六～二・八メートルの楕円形で、深さ約〇・八メートルありました。出土したものは、土師器皿、釉薬をかけ

た陶器皿、焼締めた信楽産の鉢や刀の部品などがあります。

調査区南端では、溝が見つかりました。その規模は東西約五メートル、北側半分幅約〇・五メートル、深さ約〇・三メートルでした。

この溝と重複して柱穴列が東西約七・五メートルにわたって見つけられました（図四）。いずれも柱穴の北半分だけです。柱七本分を復元できました。方向は東に向かって少し南に振れています。柱と柱の間は一・二五メートル前後です。前述の溝が埋まってから作ってあるので、溝より新しいものです。土地を分ける何かの施設と考えられます。

新しい時期のものは江戸時代の土坑や柱穴、溝、礎石などが見つかりました。主なものをあげていきます。（図五）

調査区北西部で、穴蔵が見つかりました（図六）。その規模は東西辺約二・四メートル、南北辺約二・二メートルの長方形で、深さ

は約〇・八メートルありました。底の壁際には〇二〜〇・四メートルの花崗岩の礎石五基があり、うち北西隅の一基は抜き取られていました。ここからは、江戸時代初期から江戸時代中期の土器が多く出土しました。

調査区中央部北側で礎石列が見つかりました(図七)。一辺〇・二〜〇・三メートルの花崗岩の切石と直径〇・三五〜〇・四メートルの河原石が南北に並び、その間は約一・一メートルありました。時期は江戸時代前期のものです。

調査でわかったこと

中世の都市遺跡である上京遺跡の西部にあたる調査地で、その時期の遺構を見つけることができました。このことは、調査地周辺に中世の遺構が埋まっている可能性があると見つけます。また見つかった主な遺構は、その時期が室町時代後期(十六世紀中葉)から江戸時代初期(十七世紀初頭)のものです。

上京は、織田信長によって元龜四年(一五七三)四月、「上京焼き打ち」に遭い、町全体が焼亡します。そののち同年七月には復旧が始まります。このときに調査地一帯も整備されたでしょうから、調査で見つかった遺構は、壊されたものや新たに作られたものでしょう。

また古い地図、『洛中絵圖 寛永後萬治前』(京都大学附属図書館蔵・中井家旧蔵)によると、調査地は本阿弥家所領推定地です。本阿弥家は刀劍の磨ぎ・拭い・目利きをつとめた家系であり、

室町時代後期には上層町衆となりました。そして本阿弥光悦の代の元和元年(一六一五)、小川通上立売下る本阿弥辻子の屋敷から徳川家康に賜った洛北鷹峯の地へ、一族・職人と共に移り住み、光悦村をつくりました。出土した遺物には、刀の部品や茶席で使ったと思われる土器類があります。これは、本阿弥家の家業と上層町衆であることに

関係があると考えられます。

おわりに

上京遺跡は、今回の調査が三度目であるように、遺跡としては、新しく登録されたものです。しかし、これから発掘調査が度重なり、その成果が積み重ねられていけば、中世京都の様子が、いままで以上に明らかになっていくでしょう。

(布川豊治)



図6 穴蔵写真



図7 礎石列写真

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社/京都市中京区烏丸通三条下ル ☎ 075(221)4000
フリーダイヤル ☎ 0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

北プライトホール(堀川紫明)京都市北区紫明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
中央プライトホール(五条大和路)京都市東山区五条通大和路 ☎ 075(551)5555
南プライトホール(堀川八条)京都市南区堀川通八条下西側 ☎ 075(662)0042
西プライトホール(五条西大路)京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎ 075(322)0042
烏丸プライトホール(因幡薬師)京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎ 075(351)7724
宇治プライトホール(宇治横島)宇治市横島町(京都文教大学前) ☎ 0774(20)0042
滋賀プライトホール(大津)大津市朝日が丘1丁目 ☎ 077(523)0042

上京区の音楽家たちによる

上京区一三〇周年記念音楽会

上京区一三〇周年記念事業として、上京区にゆかりのある音楽家の皆さんによる「記念音楽会」が、上京区文化振興会と上京区役所の主催により、平成二十二年二月二十八日に京都こども文化会館において開催されました。入場整理券には多くの区民の皆さんから申込みがあり、当日は満席となった会場で演奏を聴いていただき、アンケートには「すばらしかった」「感動しました」という声が多く寄せられました。

在住の作曲家・
榊田舂之扶氏
に上京区一三〇周年を記念した作品を委嘱し、上



京区の歴史・伝統を表現した作品である「華音櫻來」（かのんおうらい）が完成しました。「華音」とは、美しい優雅な上品な響き、それもただ音・響きというだけでなく、上京区に流れる伝統の息吹きといったものの表現です。そして、「櫻來」は櫻の季節、季節が巡る、という意味で使われており、「華音櫻來」には、伝統文化に支えられた上京区に歴史の季節が巡って、という意味が込められています。

第一部（吹奏楽）では、終戦直後に創部された歴史と伝統ある上京中学校吹奏楽部の約五十人の生徒が、高齢の方になつか



しみじみと心のかよう 贈りもの

<http://www.toraya-group.co.jp/>

蔵
ど
ら
や

¥2,500で食べ・飲み放題!!
ブランドアのディナーbuffet
"PRANDIA" DINNER BUFFET

京都ロイヤルホテル&スパ1階のレストラン"ブランドア"では、2ヶ月毎にテーマを設けて、ディナーbuffetを開催中。
約20種類のお料理と4種類のアルコール&ソフトドリンクが食べ放題・飲み放題で、お1人様なんと¥2,500!! ぜひお気軽にご利用ください!

毎日 17:30~21:00 (90分制:17:30~/18:00~/19:30~)

食べ放題+飲み放題 お1人様 ¥2,500

※表記料金にはすべて税金・サービス料を含んでおります ※ご予約優先
※各種割引・他券等との併用不可 ※写真はイメージです

ご予約・お問合せ: レストラン"ブランドア" Tel.075-223-8973 (直通)

地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ

しい「服部良一コレクション」には始まり、アンコールでは中学生らしく元気に「嵐」のヒット曲メドレーを演奏し、大いに盛り上げてくれました。「華音櫻來」を世界初演するに当たっては、榎田氏から、平安京からの歴史を誇る地元の情景や未来をイメージした演奏をと直接に指導も受け、一生懸命に練習を重ね、区民の皆さんに感動を与える演奏を披露してくれました。



第二部（ヴァイオリン）は、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ章」を授与されている世界的なヴァイオリニストの森悠子さんが、樋上由紀さんのピアノ伴奏により、ドビュッシーやバルトーク、クライスラーの作品を演奏し、観客を大いに魅了していただきました。

結成以来五十年近くの歴史と伝統ある上京コール・アミの皆さんによる第三部（コーラス）では、尺八演奏もとり入れた上京らしい「一条戻り橋 渡るのは誰」で幕をあけ、最後は男声コーラスも加わって「上京コール・アミ合唱讃歌」「南国のバラ」の合唱で、力強く美しい歌声でフィナーレを飾っていただきました。

上京区には、伝統文化は言うまでもなく、このように「音楽」の分野においても国内外で大活躍され、芸術文化を支えておられる方々がお住まいです。そして、上京区民が作曲した作品を上京区の次代を担ってくれる若者たちが演奏できるのも文化のまち・上京であればこそであり、来場された皆さんには、上京の懐の深さを改めて感じていただけたことでしょうか。



—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。

さわやかな水のせせらぎが聞こえ、

やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。

7つの多彩なレストラン&バーで、

ブライトン流のきめ細やかなサービスをお届けします。

- (客室) 183室
(レストラン&バー)
- 京懐石「壺(はたる)」●鉄板焼「播(ひもろぎ)」
 - フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」●テラスレストラン「フェリエ」
 - ラウンジ「クォー・オ・ミディ」●中国料理「花蘭(かかん)」
 - メインバー「ムーンシャイナ」

京都ブライトンホテル

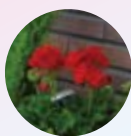
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
ブライトンホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>



本家 **玉壽軒**

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

みんなで花を 咲かそう活動



日頃から熱心に手入れを続けているボランティアの皆さんの手によって、6月の好天の日、区役所玄関前のゴールドクレストに、動物などのかたちをした5つのトピアリーフレームが取り付けられました。夏にかけて大きく成長するゴールドクレストですが、うさぎやくまなどのかわいい姿は、早くも来庁者の目を引き、楽しませています。

こうした取組は、草花に親しみながら楽しくまちの美化や環境問題を考える機会にもつながっています。

園芸に興味を持ち、継続して花の手入れをしていただける方は、お気軽に区役所まちづくり推進課までお問い合わせください。

区役所まちづくり推進課(電話441-5040)



上京区
イベント



上京区「映画のつどい」 憲法月間

5月の憲法月間にあわせて、同志社大学寒梅館において、映画「おくりびと」が上映されました。(主催/上京区民ふれあい事業実行委員会)

今回も、日本語字幕と音声ガイドによる場面ごとの説明を付けたバリアフリー上映とし、視覚や聴覚に障害のある方や高齢の方も含め、みなさんがともに映画を楽しむことができました。会場には二部・二部あわせて約七百名の方が来場され、納棺師という職業の意義深さを感じ、感動に包まれた上映会となりました。



ミニガーデン講習会

「みんなで花を咲かそう」活動

3月11日に「みんなで花を咲かそう」活動の環として、ホテルビノ京都堀川において、今人気のブリザーブドフラワーを使った「ミニガーデン講習会」を開催しました。

講師にNPO法人フラワーアーティスト育成協会理事長の辻井康雄氏をお招きし、参加者は10年以上も保存可能なブリザーブドフラワーを使って、思い思いにイメージした作品を、和気あいあいと楽しみながら仕上げました。

気軽に身近な環境づくりができることを学習し、まちの美化への意識向上にもつながりました。



上京茶会

恒例の「上京茶会」が五月三十日、大本山大徳寺塔頭・瑞峯院を会場に、表千家の懸釜で開催されました。

茶室での本席と、方丈で名庭「独坐庭」を眺めながらいただく副席の二席でお茶を味わい、贅沢な時間を過ごしていただきました。

心地よい初夏の風が流れる中、風情を味わいながら、のんびりとお茶を楽しみることができました。

宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

あじわい

¥5,000(税込)

ホテル

ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160
<http://www.rubino.gr.jp/>



レストラン

11:30~14:00

毎週日曜日はお得な
ランチバイキングを
しております

おひとり

¥1,200(税込)

元祖

ぼたん鍋と
京料理

畑かき

京・上御堂前烏丸西
☎075・四一・0610(代)



酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



花にまつわるエピソード...

FLORIST OFFICE
花工房

季節も添えて演出します。

心のこもった贈り物 Flower Gift
~花束

アレンジメント
グリーンバスケット
スタンド花 etc.~

フラワーアレンジメント教室 開催中!

本店 京都市上京区烏丸通今出川下ル tel 075-414-8700
fax 075-414-7787

フリーダイヤル 0120-46-8700

西院店 京都市右京区西院東浄和町 1-1 tel&fax 075-323-1387
長岡店 長岡京市1丁目セブン通り tel&fax 075-957-0187
大津店 大津市ロイヤルオークホテル&ガーデンズ内 tel&fax 077-545-5587

<http://www.hanakobo.co.jp>



創立以来七十五年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にもまれつつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/

京料理

はる

春日神

かみ

昼コース 二、一〇〇〇
夜コース 四、二〇〇〇
夜はアラカルトメニューもご用意です。

営業時間

昼 十一時~十四時三十分

(ラストオーダー十四時)

夜 十七時~二十三時

(ラストオーダー二十二時三十分)

〒604-1801-04

京都市中京区先斗町四条上ル相屋町一六九一三

電話 〇七五-二二-一〇〇〇-一

FAX 〇七五-二二-一〇〇〇-五



ふれあって 住民の知恵を生かした 地域づくり

—お隣り同士のふれあいを大切に—

春日学区では、「自治」「福祉」「防災」を
三位一体とした地域活動を展開しています。

NPO法人 春日住民福祉協議会



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
(2011年4月開設予定)



Doshisha University
同志社大学
<http://www.doshisha.ac.jp/>

お問合せ先 同志社大学 企画部 広報課 TEL:(075)251-3120

社会福祉法人市原寮

花友じゅらくだい

京都市上京区中立売通智恵光院西入多門町
(智恵光院中立売バス停前)

TEL075(451)6000 FAX075(451)7770

花友じゅらくだいデイサービス 075-(451)-6015

智恵光院中立売クリニック 075-(451)-6012
(神経内科・老年内科)

診療時間：月・水・金 9:00～12:00

花友じゅらくだい通所リハビリ 075-(451)-6014

福祉・医療国際研究センター 食育文化サロン
ホームヘルパー養成校

<http://www.itihara.or.jp>



名物どうふ
南禅寺 **じゆんせい**

JUNSEI
左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>



CH
A
n
o
K
A

お濃茶ラングドシヤ

茶の葉

OKOICHA
LANGUE DE CHAT

MALEBRANCHE
京都 北山

京都限定

洋菓子 マールブランシュ 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前 TEL(075)722-3399・FAX(075)702-9440
9:00AM～9:00PM 年中無休(喫茶10:00AM～8:30PM) <http://www.malebranche.co.jp/>